

真宗大谷派 存明寺通信

NO.222

2024年(仏歴2555年)11月2日

しゅうそしんらんしょうにんごたんじょう りつきょうかいしゅう
宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年

きょうさんほうよう ぞんみょうじ ぎんしゅう
慶讃法要in存明寺 2026年(令和8年)11月2日(月)・3日(火) 嚴修



ライトアップされた京都・東本願寺の御影堂門(左)と阿弥陀堂(右) 2024年10月 【写真:和田英昭さん】

人間、生きていけばいろいろなることがある。うれしいことも楽しいことも。そして、つらいことも苦しいことも、悲しいことも困ったことも。
それらのことを自分の人生に起こった大切な出来事として、それをご縁として、確かな世界に出会ってきた人間の救いの歴史もある。
南無阿弥陀仏とは、「あなたを見捨てない」「かならず救う」という仏さまの誓いの言葉。つらいことや困ったことを仏縁として、人間を見捨てない仏さまの世界に出会うということ。そのような仏道への歩みを、あきらめずに、共にしていきたいものである。
真宗大谷派 存明寺

「縁」縁
みな「縁」
困ったことも
みな「縁」
南無阿弥陀仏に
遇(あ)う「縁」
(木村無相)

存明寺のHP <https://zonmyoji.jp>
存明寺 InstagramとHP 定期的に更新中！
お寺の活動や諸行事、掲示板の言葉や花手水、法話動画など、定期的に更新中です。ぜひご覧ください。

↓ インスタ ↓ ↓ 存明寺 HP ↓



ZONMYOJI_SAKAI

つらいなみだは、君のこころを浄化し 温めてくれるだろう

『真宗児童聖典』より

この言葉を読んだ時に、ある出来事を思い起こしました。お寺で行っている「グリーンケアのつどい」でのことです。大切な方を亡くした人のつどいで、正信偈を唱和し、法話や座談をするという、浄土真宗のスタイルで実施しています。

今年の1月半ばに、以前につどいに参加してくださった若い男性から電話がありました。その方は、婚約者を殺人事件で失うという痛ましい出来事を体験した方です。

当時、私はお話を聞くことしかできず、自分の力不足を痛感していました。その方は電話でこう話してくれました。

「実は、あの時、死のうと思っていた。でも、ある人に勧められて、存明寺のグリーンケアのつどいに行ってみた。すると、自分の

話を涙を流しながら聞いてくれる人たちがいた」と言うのです。さらに、そこに集まっている人たちは、お連れ合いさんを亡くされて、深い悲しみの中で懸命に生きようとしている人や、亡くされた方へのごめんなさいという気持ちを抱えながら生きようとしている人がたくさんおられた、と。そして「自分も生きようと思った」と伝えてくれました。グリーンケアという場に出会えたことのお礼を言いたいと、電話をくださったのでした。

私にとって、とてもうれしい出来事でしたが、私がかがができるというの、思い上がりなのではないかとも思いました。「言葉では説明できない“場の力”がここにある」というのは、京都ご本山の同朋会館のキャッチフレーズで

すが、人が集まり、聞き、語るということに真剣で丁寧であれば、場は力を持つのだと思います。ひとりの方の話を聞き、自分の思いを語る。その先には、出会いや共感する世界が私たちを待っていてくれるのではないのでしょうか。

浄土真宗という世界は、物事をなかつたことにしたり、後から書き換えるという宗教ではありません。では、どういう宗教かといえば、起こった出来事から私がかが何を学ぶという世界です。起こった出来事を帳消しにするとか忘れたいという思いは、湧き起こってきます。しかし、浄土真宗の世界は、悲しみの意味をたずねていく、出来事から私がかがを学んでいくという宗教だと受け止めています。

先の言葉に戻りますが、「つらい涙」は無駄なのでしょう。いえ、そうではありません。「君のこころを浄化し、温めてくれるだろう」と。それは涙から育てられる者になるということではないでしょうか。

つらい涙が自分を揺り動かして、

促して、そして教えが私を照らしてくれる。そうして人間は目覚めて、この現実をわが人生として生きようという世界が、私に開かれていくのだと思います。

(任職 酒井義一)



◆おみがきのつどい御礼(敬称略)

甘田富子 井ヶ瀬恵子 内井照江
内野洋子 岡田真 岸木勉
熊崎尚登 小林和子 駿河辰代
関口昌雄 竹谷タケ子 長島巖
長谷川静美 持田直範 山田政孝
安田幸弘 吉山浩文 酒井あゆみ
酒井大樹 酒井浩美 酒井義一

合計 21名

報恩講法要に向けて、仏具のおみがきのつどい (10月18日実施)

真宗本廟奉仕団のご報告 京都東本願寺に行ってきました



コロナによつて中断していた「真宗本廟奉仕団」(おとなの修学旅行)が6年ぶりに行われ、10月22日〜24日、親鸞聖人のおひざ元である京都の東本願寺に行ってきました。9回目の開催で、13名が参加しました。講師は「存明寺夏の法話会」の講師であった和田英昭さん(岐阜高山教区照明寺住職)。補導は、木村慎さん(山陽)・上場直裕さん(大阪)・片岡隆英さん(東北)でした。

親鸞聖人の教えに触れる法話や語り合い、清掃奉仕や諸殿拝観など、寝食を共にしながら、浄土真宗にどっぷりとつかるとつかるあたたかな時間を過ごすことができました。

■奉仕団で出会った教えの言葉

- ・不安とは真実からの呼びかけ (宮城 顛)
- ・宗祖親鸞聖人は単なる苦勞人ではなく、誠に苦惱人であられませんでした (松原祐善)
- ・わかつてわからんでも念仏しなさい。そして念仏に育てられなさい (信国 淳)
- ・自分のものさしで問うのではなく、自分のものさしそのものを問う
- ・いのちが生き生きするならそのことをやりなさい。いのちが委縮するのならそのことをやめなさい (梶原敬一)
- ・人生はやり直すことはできないけれど、生き直すことはできる (梶原敬一)
- ・供養とは亡き人から賜ったのちを無駄にすることなく完全燃焼し尽くすこと

真宗本廟奉仕団(10月22日~24日) 写真館

写真:高橋昭彦さん



↑御影堂にて集合写真



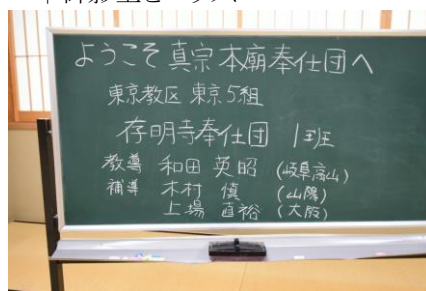
↑御影堂をバックに



↑金色に輝く阿弥陀堂にて



↑諸殿拝観 宮御殿にて



↑黒板に「ようこそ」の文字が



↑輪になったの語り合いの時間

2024(令和6)年 お寺のつどい

11月16日(土) 14時 樹心の会
 お話：城ノ下恭博さん・浩美坊守・義一住職
 11月19日(火) 14時 真宗聖典輪読会
 12月3日(火) 14時 真宗聖典輪読会
 12月14日(土) 14時 樹心の会
 お話：長島巖さん・大樹副住職・義一住職
 12月21日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 大切な方を亡くした人のつどい
 ※子ども会・子ども食堂・子育てサロンも
 随時開催中です。

来年の特別企画 法話を聞くつどい

東京教区の法話動画の収録のため、
 お寺で一人30分の法話が行われます。
 日時 2025年2月1日(土) 14時
 場所 存明寺本堂にて
 講師 岩松知也さん(茨城県・浄善寺)
 伊藤大信さん(神奈川県・西教寺)
 星野 暁さん(茨城県・浄安寺)
 会費 無料

2025(令和7)年 お寺のつどい

1月1日(水) 10時 修正会
 2月1日(土) 14時 法話を聞くつどい
 3月8日(土) 14時 樹心の会
 3月14日(金) 13時 おそうじの日
 3月20日(木) 11時と13時 春のお彼岸法要
 3月29日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 4月14日(月) 18日(金) 特別企画
 東京教区慶讃法要 眞宗会館
 ※4月の「樹心の会」はお休みとなります。
 4月25日(金) 10時 おみがきのつどい
 5月3日(土) 12時 永代経法要
 5月17日(土) 14時 樹心の会
 6月14日(土) 14時 樹心の会
 6月28日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 7月5日(土) 11時 新盆法要
 7月13日(日) 11時と13時 おぼん法要
 9月13日(土) 14時 樹心の会
 9月23日(火) 11時と13時 秋のお彼岸法要
 9月27日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 10月11日(土) 14時 樹心の会
 10月24日(金) 10時 おみがきのつどい
 11月2日(日) 14時 報恩講のゆうべ
 3日(月) 12時 報恩講
 11月15日(土) 14時 樹心の会
 12月13日(土) 14時 樹心の会
 12月20日(土) 14時 グリーフケアのつどい
 ※秋ごろに「日帰り旅行会」を計画中です。

【あとがき】



▼最近物忘れが多くなってきたようだ。お寺の仕事で相手との約束を、すっかり忘れていることがある。記憶からすっぽり抜け落ちているのである。
 ▼そんな時、若い頃に聞いた和田稔先生の言葉を思い出した。先生は晩年こう言われた。「おもしろいね。耳が遠くなつてね。足が曲がらなくなつてね」。老いの現象をおもしろいと。その心は???▼先生は続ける。「初めての経験だからね。足が曲がらなくなるのはこういうことなのか、耳が遠くなったらこういう思いをするのかと、おもしろいね、毎日新しい体験させてもろと」と。▼自分が老いて初めて、今まで気づかなかつた人の心を知っていく。▼老いからも生きることを学ぶ者となる。今更ながら、素敵な生き方だと感じている。 住職 薙

東京都世田谷区北鳥山4-15-1
 眞宗大谷派 存明寺(ぞんみやまじい)
 住職 酒井 義一(しゅゐ ぎいち)
 TEL 03-3300-5057
 FAX 03-3300-5880
 E-mail : sakai@zomyoji.jp